

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品の本質に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品は、多くの場合、人体に取り込まれて作用し、効果を発現させるものである。
- 2 医薬品は、人体にとっては異物（外来物）である。
- 3 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡るが、そのすべてが解明されている。
- 4 医薬品は、知見の積み重ねによって、有効性、安全性等に関する情報が集積されており、随時新たな情報が付加されるものである。

問2

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- b 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われるが、承認基準が見直されることはない。
- c 医療用医薬品と比較すればリスクは相対的に低いと考えられる一般用医薬品であっても、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。
- d 医薬品は、医薬品医療機器等法により、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等があってはならない旨が定められている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問3

医薬品のリスク評価に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の効果とリスクは、薬物暴露時間と暴露量の和で表現される用量 - 反応関係に

基づいて評価される。

- b 少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合がある。
- c 医薬品には、食品と同程度の安全性基準が要求される。
- d ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に Good Clinical Practice (GCP) が制定されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問4

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 栄養機能食品については、各種ビタミン、ミネラルに対して栄養機能の表示ができる。
- b 特定保健用食品は、特定の保健機能の表示をすることができる。
- c 健康補助食品（いわゆるサプリメント）については、誤った使用法により健康被害を生じた例の報告はない。
- d 機能性表示食品は、疾病に罹患していない者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨（疾病リスクの低減に係るものを除く。）を表示するものである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問5

第1欄の記述は、医薬品の副作用の定義に関するものである。（ ）の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

（ ）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。

第2欄

- 1 国際連合教育科学文化機関（UNESCO）
- 2 医薬品医療機器等法
- 3 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法
- 4 世界貿易機関（WTO）
- 5 世界保健機関（WHO）

問6

医薬品の副作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の副作用は、すべて明確な自覚症状として現れる。
- b アレルギー（過敏反応）は、一般的にあらゆる物質によって起こり得るものであるため、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得るものであり、また、内服薬だけでなく外用薬等でも引き起こされることがある。
- c 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人では使用を避けなければならない場合もある。
- d アレルギーには体質的な要素があるが、遺伝的な要素はない。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問7

医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「薬は多く飲めば早く効く」と考えて、定められた用量を超える量を服用すると、有害事象につながる危険性が高い。
- b 小児への使用を避けるべき医薬品であっても、大人用のものを半分にして小児に服用させれば、有害事象につながる危険性は低い。
- c 一般用医薬品は作用が緩やかなものであり、習慣性・依存性がある成分を含んでいるものはない。
- d 医薬品を本来の目的以外の意図で、定められた用量を意図的に超えて服用すると、過量摂取による急性中毒等を生じる危険性が高くなる。

a b c d

- 1 誤 誤 正 正

- 2 正 誤 誤 正
- 3 正 正 誤 誤
- 4 正 正 正 誤
- 5 誤 正 正 正

問8

医薬品に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医療機関で治療を受けている場合は、一般用医薬品を併用しても問題がないかどうかについて、治療を行っている医師又は歯科医師若しくは処方された医薬品を調剤する薬剤師に確認する必要がある。
- 2 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- 3 かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多いが、作用が穏やかなため、これらの薬効群に属する医薬品は併用してもよい。
- 4 一般用医薬品の場合、その使用を判断する主体は一般の生活者であることから、その適正な使用を図る上で、販売時における専門家の関与が重要である。

問9

小児の医薬品の使用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において、乳児という場合には、おおよその目安として3歳未満を指す。
- b 小児は血液脳関門が未発達であるため、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすく、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- c 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- d 小児は肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄に時間がかかり、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 10

高齢者の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において、高齢者という場合は、おおよその目安として60歳以上を指す。
- b 医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合や、細かい文字が見えづらい場合があるため、
情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。
- c 持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。
- d 高齢者にみられる傾向として、医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすいことがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 11

妊婦・授乳婦の医薬品の使用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医療用医薬品と異なり、妊婦が一般用医薬品を使用した場合における安全性に関する評価は確立されているため、一般用医薬品はすべて使用してもよい。
- b 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組み（血液-胎盤関門）がある。
- c 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取する場合がある。
- d 医薬品によっては、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものがあるが、流産や早産を誘発するおそれのあるものはない。

1	(a、b)	2	(b、c)	3	(c、d)	4	(a、d)
---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

問 12

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果という。
- 2 プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。
- 3 プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもあるが、不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。
- 4 プラセボ効果は、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）は関与していないと考えられている。

問 13

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を保管・陳列する場所については、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意する必要がある。
- b 医薬品は、適切な保管・陳列がなされれば、経時変化による品質の劣化はない。
- c 一般用医薬品では、購入された後、すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることが重要である。
- d 医薬品に表示されている使用期限は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 14

一般用医薬品の役割に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防（科学的・合理的に効果が期待できるもの

に限る。)

- b 軽度な疾病に伴う症状の改善
- c 生活の質（QOL）の改善・向上
- d 健康状態の自己検査

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 15

一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医薬品医療機器等法において「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの（要指導医薬品を除く。）」と定義されている。
- b 症状が重いときでも、医療機関の受診はせず、まずは一般用医薬品を使用することが適切な対処である。
- c セルフメディケーションとは、専門家によるアドバイスを受けることなく、自己判断により一般用医薬品を利用する考え方である。
- d 一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 16

販売時のコミュニケーションに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の販売に従事する専門家は、可能な限り、購入者側の個々の状況の把握に努めることが重要である。
- 2 一般用医薬品の場合、すぐに使用する必要に迫られて購入されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、その医薬品がすぐに使用される状況にあるかどうかを把握するよう努めることが望ましい。
- 3 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することが重要である。
- 4 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合には、コミュニケーションを図る必要はない。

問 17

サリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠している女性が、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、一方の異性体であるS体のみが有するため、もう一方の異性体であるR体のサリドマイドを分離して製剤化すれば催奇形性は避けられる。
- c この訴訟は製薬企業のみを被告として提訴され、1974年に和解が成立した。
- d 日本では、1961年12月に西ドイツ（当時）の企業から勧告が届いており、かつ翌年になってからもその企業から警告が発せられていたにもかかわらず、出荷停止は1962年5月まで行われず、販売停止及び回収措置は同年9月であるなど、対応の遅さが問題視された。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 18

第 1 欄の記述は、スモン訴訟に関するものである。() の中に入れるべき字句は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

() として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症（英名 Subacute Myelo-Optico-Neuropathy の頭文字をとってスモンと呼ばれる。）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。スモンは、その症状として初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。麻痺は上半身にも広がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。

第 2 欄

- 1 鎮咳去痰薬
- 2 抗アレルギー剤
- 3 解熱鎮痛剤
- 4 催眠鎮静剤
- 5 整腸剤

問 19

H I V 訴訟に関する記述について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（H I V）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b この訴訟を契機に、医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- c この訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。
- d この訴訟の和解を踏まえ、国は、H I V 感染者に対する恒久対策として、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進している。

a b c d

- 1 誤 正 正 誤

- 2 正 正 誤 正
 3 正 誤 正 誤
 4 誤 正 誤 正
 5 正 誤 正 正

問 20

CJD訴訟に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の()内には同じ字句が入る。

(a) 外科手術等に用いられた (b) 乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。CJDは、(c) の一種であるプリオンが原因とされ、プリオンが (a) の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

- | | a | b | c |
|---|----|----|-------|
| 1 | 脳 | ヒト | タンパク質 |
| 2 | 脳 | ウシ | タンパク質 |
| 3 | 口腔 | ヒト | ウイルス |
| 4 | 口腔 | ウシ | タンパク質 |
| 5 | 脳 | ヒト | ウイルス |

<第3章 主な医薬品とその作用>

問 21

かぜ及びかぜ薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a インフルエンザ（流行性感冒）は、ウイルスの呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
- b かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものである。
- c かぜ薬の重篤な副作用として、まれに、ショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症等が起きることがある。
- d アルコールは医薬品の成分の吸収や代謝に影響を与えるため、かぜ薬の服用期間中は、飲酒を控える必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 22

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてマオウを含むものはどれか。

- 1 小柴胡湯
- 2 半夏厚朴湯
- 3 葛根湯
- 4 麦門冬湯
- 5 香蘇散

問 23

かぜ薬に配合される成分とその成分を配合する目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

(配合成分) . . . (配合目的)

- a ブロムヘキシン塩酸塩 . . . 発熱を鎮め、痛みを和らげる。
- b プソイドエフェドリン塩酸塩 . . . 鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡げる。
- c メキタジン . . . 痰の切れを良くする。
- d グリチルリチン酸二カリウム . . . 炎症による腫れを和らげる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 24

眠気防止薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カフェインは、脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感（だるさ）を抑える効果がある。
- b 成長期の小児の発育には睡眠が重要であることから、小児用の眠気防止薬はない。
- c カフェインには、胃液分泌を抑制する作用がある。
- d 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量は、カフェインとして500mg、1日摂取量は1,200mgが上限とされている。

1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 25

解熱鎮痛成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a イブプロフェンは、局所のプロスタグランジンの産生を抑制する作用により、体の各部（末梢）での痛みを鎮める。
- b アスピリンには血液を凝固しにくくさせる作用があるため、胎児や出産時の母体への影響を考慮して、出産予定日12週間以内の使用を避ける。
- c サザピリンは、ライ症候群の発生が示唆されており、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- d アセトアミノフェン、コデイン、エテンザミドの組み合わせは、それぞれの頭文字から「ACE処方」と呼ばれる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 26

鎮痛薬に用いられる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く作用時間が短い。
- b プロメタジンを含む成分については、外国において、乳児突然死症候群などのような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。
- c スコポラミン臭化水素酸塩は、乗物酔い防止に古くから用いられている抗コリン成分で、肝臓での代謝が緩やかなため、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間は長い。
- d ジフェニドール塩酸塩は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 27

小児の疳及び小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児では、特段身体的な問題がなく、基本的な欲求が満たされていても、夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状が現れることがある。
- b 用いられている生薬成分はいずれも古くから伝統的に用いられているので、購入者等が安心して使用できるよう、「作用が穏やかで小さな子供に使用しても副作用は無い」と積極的な情報提供を行うことに努める必要がある。
- c 症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- d 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後1ヶ月の者に使用することができる。

1	(a、b)	2	(a、c)	3	(b、d)	4	(c、d)
---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

問 28

鎮咳去痰薬に配合される代表的な成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 鎮咳成分であるジヒドロコデインリン酸塩は、その作用本体であるジヒドロコデインがモルヒネと同じ基本構造をもち、副作用として便秘が現れることがあるが、依存性はない。
- 2 気管支拡張成分であるメチルエフェドリン塩酸塩は、副交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示すほか、心臓血管系や、肝臓でのエネルギー代謝等にも影響が生じることがある。
- 3 去痰成分には、気道粘膜からの粘液の分泌を抑制するグアイフェネシンや、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させるメチルシステイン塩酸塩などがある。
- 4 咳や喘息、気道の炎症はアレルギーに起因することがあり、鎮咳成分や気管支拡張成分、抗炎症成分の働きを助ける目的で、クレマスチンフマル酸塩などの抗ヒスタミン成分が配合されている場合がある。

問 29

口腔咽喉薬、含嗽薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔咽喉薬は、口腔内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的とするもので、鎮咳成分や気管支拡張成分、去痰成分が配合されている。
- b 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射することが望ましい。
- c トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が速やかに吸収されるように、噛み砕いて服用する。
- d ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると、殺菌作用が失われるため、ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬では、そうした食品を摂取した直後の使用や混合は避けることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正

- 4 誤 誤 誤 正
5 正 誤 誤 誤

問 30

胃の薬に配合される成分のうち、透析療法を受けている人では使用を避ける必要があるものはどれか。

- 1 テプレノン
2 スクラルファート
3 セトラキサート塩酸塩
4 ソファルコン
5 アズレンスルホン酸ナトリウム

問 31

浣腸薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔吐が現れた場合には、急性腹症（腸管の狭窄、閉塞、腹腔内器官の炎症等）の可能性があるため、浣腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。
- b 肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときは、グリセリンが配合された浣腸薬を使用することが望ましい。
- c 炭酸水素ナトリウムを主薬とする坐剤では、まれに重篤な副作用としてショックを生じることがある。
- d グリセリンは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 正 |

問 32

駆虫薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。
- b 駆虫薬は、消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、食後に使用することとされているものが多い。
- c ピペラジンリン酸塩は、アドレナリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d パモ酸ピルビニウムは、水に溶けにくいため消化管からの吸収は少ないとされているが、ヒマシ油との併用は避ける必要がある。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 33

強心薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品では、センソの1日用量が5mg 以下となるよう用法・用量が定められている。
- b センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- c ロクジョウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を鎮める等の作用があるとされる。
- d 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品である。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

問 34

高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールの生合成抑制を抑えることを主な目的として配合される。
- b パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質（LDL）産生を高める作用があるとされる。
- c ビタミンEは、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。
- d 大豆油不飽和化物（ソイステロール）には、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 35

貧血用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤を服用すると便が赤くなることがある。
- b マンガンは赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。
- c 鉄分の吸収は食後より空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。
- d ビタミンCは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。

1	(a、b)	2	(b、c)	3	(c、d)	4	(a、d)
---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

問 36

痔の病態に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 痔は、肛門部に過度の負担をかけることやストレス等により生じる生活習慣病である。
- b 裂肛は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態であり、一般に、「切れ痔」(又は「裂け痔」と呼ばれる。
- c 痔瘻は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたものである。
- d 痔核では、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって炎症・化膿が生じており、体力低下等により抵抗力が弱まっているときに起こりやすい。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 37

外用痔疾用薬の成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a エフェドリン塩酸塩は、血管収縮作用による止血効果を期待して用いられる。
- b リドカインは知覚神経の刺激伝達を可逆的に遮断し、痔に伴う痛みや痒みを和らげる。
- c アラントインは殺菌消毒成分であり、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として用いられる。
- d クロタミトンは局所への穏やかな冷感刺激によって痒みを抑える。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 38

鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ナファゾリン塩酸塩は鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを期待して用いられる。
- 2 ベンザルコニウム塩化物は、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌などの微生物による二次感染を防止する目的として用いられ、結核菌やウイルスにも効果を示す。
- 3 点鼻薬は局所（鼻腔内）に適用されるため、循環血液中には入らず、全身的な影響は生じない。
- 4 クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体に結合するのを妨げることにより、抗アレルギー作用を示す。

問 39

次の漢方処方製剤のうち、尿量増加（利尿）作用を期待して用いられるものとして、誤っているものはどれか。

- 1 牛車腎気丸
- 2 八味地黄丸
- 3 猪苓湯
- 4 竜胆瀉肝湯
- 5 小青竜湯

問 40

一般用医薬品において用いられる主な有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プソイドエフェドリン塩酸塩は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が弱く、副作用として不眠が現れることはない。
- b ジフェンヒドラミン塩酸塩は、吸収された後、母乳中へ移行することはないので、授乳している女性が服用しても問題ない。
- c 抗ヒスタミン成分は抗コリン作用も示すため、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人が服用すると症状が悪化することがある。
- d メチルエフェドリン塩酸塩は長期間にわたって連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 41

眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギー用点眼薬は、花粉、ハウスダスト等による目のアレルギー症状（流涙、目の痒み、結膜充血等）の緩和が目的である。
- b スルファメトキサゾールは、細菌感染による結膜炎やものもらい、眼瞼炎などの化膿性の症状の改善を目的として用いられる。
- c リボフラビンの活性体であるフラビンアデニンジヌクレオチドは、ビタミンB2欠乏が関与する角膜炎に対して改善効果を期待して用いる。
- d テトラヒドロゾリン塩酸塩は、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 42

目の調節機能を改善する配合成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

自律神経系の伝達物質であるアセチルコリンは、水晶体の周りを囲んでいる毛様体に作用して、目の調節機能に関与している。目を酷使すると、アセチルコリンを分解する酵素（コリンエステラーゼ）の働きが（ a ）、目の調節機能が低下し、目の疲れやかすみといった症状を生じる。

ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを（ b ）作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを（ c ）ことで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

- | | a | b | c |
|---|-------|-----|-----|
| 1 | 衰え | 助ける | 抑える |
| 2 | 衰え | 抑える | 助ける |
| 3 | 衰え | 助ける | 助ける |
| 4 | 活発になり | 助ける | 抑える |
| 5 | 活発になり | 抑える | 助ける |

問 43

頭皮・毛根に作用する配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 脱毛は男性ホルモンの働きが過剰であることも一因とされているため、女性ホルモン成分が配合されている場合がある。
- 2 毛髪用薬は、脱毛の防止、育毛、ふけや痒みを抑えること等を目的として、頭皮に適用する医薬品である。
- 3 カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）においてアセチルコリンに類似した作用（コリン作用）を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- 4 カシュウは、タイワンヒノキ、ヒバ等から得られた精油成分で、抗菌、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

問 44

次の皮膚に用いられる医薬品成分のうち、抗菌作用を目的として配合される成分はどれか。

- 1 ジフェンヒドラミン
- 2 クロラムフェニコール
- 3 ジフェニルイミダゾール
- 4 クロルフェニラミンマレイン酸塩
- 5 イソチペンジル塩酸塩

問 45

外皮用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a デキサメタゾンは、ステロイド性抗炎症成分であり、痒みや発赤などの皮膚症状を抑えることを目的として用いられる。
- b ブテナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。
- c ヨードチンキに含まれるヨウ素の殺菌力は、アルカリ性になると増強する。
- d ヘパリン類似物質は、血液凝固作用を有している。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 46

皮膚に用いる薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 塗り薬は、容器から直接指に取り、患部に塗布したあと、また指に取ることを繰り返すことが望ましい。
- 2 貼付剤は、同じ部位に連続して貼付しても、かぶれ等を生じることはない。
- 3 スプレー剤は、患部から十分離して噴霧し、連続して噴霧する時間は3秒以内とすることが望ましい。
- 4 外皮用薬を使用する際には、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴前に用いるのが効果的とされる。

問 47

歯痛・歯槽膿漏薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 歯周組織の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸二カリウムが配合されている外用薬がある。
- b 銅クロロフィリンナトリウムは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、

歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して配合されている場合がある。

c 内服で用いる歯槽膿漏薬は、同じ又は同種の成分が配合されたかぜ薬、胃腸薬等が併用された場合、作用が弱くなるおそれがある。

d フェノールは、齲蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として用いられる

が、粘膜刺激を生じることがあるため、歯以外の口腔粘膜や唇に付着しないように注意が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 48

口内炎及び口内炎用薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1 疱疹ウイルスの口腔内感染や医薬品の副作用により口内炎を生じることはない。

2 シコンは、組織修復促進、抗菌などの作用を期待して用いられる。

3 茵陈蒿湯は、体力中等度以上で口渇があり、尿量少なく、便秘するものの蕁麻疹、口内炎、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

4 口内炎用薬は、口腔内を清浄にしてから使用することが重要であり、口腔咽喉薬、含嗽薬などを使用する場合には、十分な間隔を置くべきである。

問 49

ニコチンを含む禁煙補助剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1 禁煙補助剤の使用直後又は使用直後の喫煙は、血中のニコチン濃度が急激に高まるおそれがあり、避ける必要がある。

2 妊婦又は妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性では、胎児又は乳児に影響が生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

3 禁煙補助剤を使用するニコチン置換療法は、ニコチンの摂取方法を喫煙以外に換えて離脱症状の軽減を図りながら徐々に摂取量を減らし、最終的にニコチン摂取をゼロにする方法である。

4 コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後は、口腔内が酸性になるため、ニコチンの吸収が促進される。

問 50

ビタミン成分に関する記述のうち、ビタミンCの記述にあたるものはどれか。

1 タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。

2 腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。

3 夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

4 体内の脂質を酸化から守る作用（抗酸化作用）を示し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

問 51

滋養強壮保健薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a カルシウムを含む成分は、胃腸薬等、カルシウムの補給を目的としない医薬品においても配合されており、カルシウム主薬製剤との併用によりカルシウムの過剰摂取を生じることがないように留意する必要がある。

b 補中益気湯は、体力虚弱で元気がなく、胃腸の働きが衰えて、疲れやすいものの虚弱体質、疲労倦怠、病後・術後の衰弱、食欲不振、寝汗、感冒に適すとされる。

c アスパラギン酸ナトリウムは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分で、ビタミンE等と組み合わせて配合されている場合がある。

d コンドロイチン硫酸ナトリウムは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。

a b c d

1 誤 誤 正 正

2 正 誤 誤 正

3 正 正 誤 誤

4 正 正 正 誤

5 誤 正 正 正

問 52

生薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
- 2 小柴胡湯とインターフェロン製剤の相互作用のように、医療用医薬品との相互作用も知られている。
- 3 漢方処方製剤の多くは、処方に基づく生薬混合物の浸出液を濃縮して調製された乾燥エキス製剤を散剤等に加工して市販されている。
- 4 生薬成分を食品として流通させる場合でも、積極的な情報提供のため医薬品的な効果効果の標榜が必要である。

問 53

第 1 欄の記述は、生薬成分に関するものである。該当する生薬成分は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。血液循環が高まることによる利尿作用を示すほか、鎮痛作用を示すが、アスピリン等と異なり、プロスタグランジンを抑えないことから、胃腸障害等の副作用は示さない。

第 2 欄

- 1 ボウフウ
- 2 サイコ
- 3 カッコン
- 4 ブシ
- 5 サンザシ

問 54

漢方処方製剤とその適用となる症状・体質との関係のうち、正しいものの組み合わせはど

れか。

(漢方処方製剤) . . . (適用となる症状・体質)

- a 防己黄耆湯 . . . 体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）
- b 清上防風湯 . . . 体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるもののにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、赤鼻（酒さ）
- c 黄連解毒湯 . . . 体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、肥満症
- d 防風通聖散 . . . 体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 55

感染症の防止と消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 殺菌・消毒は物質中のすべての微生物を殺滅又は除去することである。
- b 消毒薬を誤って飲み込んだ場合は、一般的な家庭における応急処置として、通常は多量の牛乳などを飲ませるが、手元に何もなければまず水を飲ませる。
- c クレゾール石鹼液は、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。
- d ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 56

有機リン系殺虫成分に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

殺虫作用は、アセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と（ a ）に結合してその働きを阻害することによる。これらの殺虫成分は、ほ乳類や鳥類では速やかに分解されて排泄されるため毒性は比較的（ b ）。ただし、高濃度又は多量に曝露した場合（特に、誤って飲み込んでしまった場合）には、神経の異常な興奮が起こり、（ c ）、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

- | | a | b | c |
|---|------|----|----|
| 1 | 不可逆的 | 低い | 縮瞳 |
| 2 | 不可逆的 | 高い | 散瞳 |
| 3 | 可逆的 | 高い | 散瞳 |
| 4 | 可逆的 | 低い | 縮瞳 |
| 5 | 不可逆的 | 低い | 散瞳 |

問 57

衛生害虫に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 燻蒸処理は、ゴキブリの卵に対して殺虫効果を示さない。
- b 医薬品によるシラミの防除の方法は、殺虫成分としてフェントリンが配合されたシャンプーやてんか粉が用いられる。
- c イエダニの防除には、殺虫剤による燻蒸処理等が重要であり、宿主動物であるネズミを駆除することは重要ではない。
- d ハエの防除の基本は、ウジの防除であり、ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 正 | 正 |

問 58

一般用検査薬の販売時の留意点に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医療機関を受診中の場合は、通院治療を続けるよう説明する。
- 2 検査結果の判定についてわかり易く説明する。
- 3 専門的診断におきかわるものであることについてわかり易く説明する。
- 4 検体の採取時間とその意義をわかり易く説明する。

問 59

尿糖・尿タンパク検査薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 尿糖検査薬を長い間尿に浸していると検出成分が溶け出してしまい、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- b 尿タンパクの検査結果に影響を与える要因として採尿に用いた容器の汚れがある。
- c 尿タンパクの検査の場合、食後2～3時間を目安に採尿を行う。
- d 中間尿では、尿道や外陰部等に付着した細菌や分泌物が混入することがあるため、出始めの尿を採取して検査することが望ましい。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 60

妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 実際に妊娠が成立してから1週目前後における尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)濃度を検出感度としている。
- b 検体としては、尿中のhCGが検出されやすい早朝尿(起床直後の尿)が向いているが、尿が濃すぎると、かえって正確な結果が得られないこともある。
- c 高濃度のタンパク尿や糖尿の場合でも、擬陽性を示すことはない。
- d 検査薬は高温になる場所に放置されたり、冷蔵庫内に保管されていたりすると、設計どおりの検出感度を発揮できなくなるおそれがある。

a b c d

- 1 正 誤 誤 正

2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤